

アンノヤクシ 庵の薬師 珠洲郡鳥越(今の概原)にある。昔加志波良比古神社が大社であつた比、神護寺と稱する眞言の社僧があり、この薬師はその本尊であつたといふ。
アンヨウジ 安養寺 金澤木、新保に在つて、一向宗東派に属する。明治十三年寺號公稱の許可を得た。初め北石坂町又は本馬町に在り、大正三年今の所に移つた。

アンヨウジ 安養寺 石川郡中奥郷に属する郡落。この村の白山社は、もと十一面觀音を本尊としたものであり、又社の篋中には經塚がある。郷村名義抄に、村名は安養寺があつた地であるから起つたとある。
アンヨウジ 安養寺 羽咋郡徳田に在つた。眞言宗に属し、もと二所宮熊野神社の社僧が轉じて來たもので、山號を森山といふ。能登名跡志に、『眞言宗六坊あり。惣名安養寺といふ。是も寺領十二石餘也。是は利常公の御母堂壽福院此所の御出生故寺領ありし由。』とある。所謂六坊は座主圓福院・常住院・吉祥坊・文殊坊・寶泉坊・一乘坊であり、十二石餘は十二石五斗である。但し壽福院の此の地に出生といふは誤であらう。今常住院・一乘坊のみ他に轉じて存し、その外は絶滅した。

アンヨウジ 安養寺 鹿島郡良川に在つて、眞宗西派に属する。
アンヨウジ 安養寺 能登誌の鳳至郡中居の條に、『往古此所に日吉山安養寺とて、天台宗の大寺あり。本坊は岩車村に在つて、氏神山王宮は美麻那比古神社の根元にて、岩車村に七社、中居南村に七社、同北村に七社、日吉廿一社を勧請し、兩部習交の大社にて、別當本坊日吉山安養寺其外社僧社人多くありしとぞ。』とあるから、安養寺は岩車の日吉社の別當であつたと見える。この寺號は後に一向宗として存したが、明治六年に消滅した。能登誌の山王社を美麻那比古社とする説はうけ難い。
アンヨウジ 安養寺 鳳至郡柳田に在つて、眞言宗に属する。もと白山神社の座主であつた。能登名跡志に、『安養寺とて密宗あり。昔は二百石寺領ありて、五社權現の社なり。今も別當なり。』と見える。
アンヨウジ 安養寺 珠洲郡宗玄にあつた。能登誌に、『乙劍大明神は宗玄村の産神也。昔は大社にて、別當安養寺とてありしが廢絶し、今その寺號金峰寺の内に有て、寺はなし。』とある。

アンヨウホウ 安養坊 石川郡白山比咩神社に属してゐた。白山宮長吏澄意の白山問答に、安養坊は波着寺のことで、長吏屋敷二百歩の外は即ち安養坊屋敷であると記してゐる。一書に金澤小立野波着寺開山空照は越前から前田利家に召されて金澤に來たのであるが、隱居の後白山長吏居邸の後に二十間に三十五間の地を賜はつたとある。安養坊は空照が越前に居た時からの坊號であるから、白山宮の安養坊も空照の創めたものである。
アンラクジ 安樂寺 金澤八坂にあつて、寶信山と號し、淨土宗に属する。開山立空等攝は越前の人で、慶長七年當寺を創立した。

アンラクジ 安樂寺 石川郡泉に在つて、眞宗東派に属する。
アンラクジ 安樂寺 河北郡笠池ヶ原に在つて、眞宗東派に属する。もと道場であつたが、明治二十三年二月寺號公稱を許された。

アンラクジ 安樂寺 羽咋郡二所宮に在つて、眞宗東派に属する。
アンラクジ 安樂寺 鹿島郡府中に在つて、眞宗西派に属する。
アンリユウジ 安立寺 金澤沼田町にあつて、常秀山と號し、日蓮宗に属する。由來書に、京都本山上行寺日應が金澤の檀那の爲に造立を出願し、寛永五年許可を得たものであると記する。明治中妙法寺と合して妙安寺と稱し、昭和の初年更に桃昌町の本光寺と合流して立正寺と改めた。

イオウイン 醫王院 金澤觀音町に在つて眞言宗に属し、金龍山又は長谷山と號する。寛永九年觀音院四世祐雄の建立で、元は觀音院地内の支院であつた。俗に五佛といつたのは五體の佛像があつたからである。明治元年神佛混淆禁止の際、卯辰山王の本地佛觀音院の本尊を初め悉く當寺に移した。

イオウイン 醫王院 鳳至郡中居南に在つて、眞言宗に属する。能登名跡志に、『南村氏神は山王權現也。別當醫王院・觀音院・蓮臺院・月光院四ヶ寺年替り也。』とあるが、この文中に四ヶ寺とあるは、一乘院と共に五ヶ寺であらう。今當寺の境外佛堂に木像藥師如來壹軀体高一七寸のものがある。鎌倉時代末乃至室町初期のものと認められ、能登十二薬師の一つで奥津薬師と呼ばれる。もと日吉神社にあつたといふ。

イオウジ 醫王寺 金澤小立野に在つた。文祿元年僧大醫院が波着寺境内に建立したのを初とし、眞言宗の山伏寺であつたが、今は存せぬ。
イオウジ 醫王寺 江沼郡山中温泉水無山の麓にある。山號は國分山といふのが普通だが、堀麥水の山中夜話に瑠璃山とし、小川景福の山中十景の詩には金剛山としてゐる。又世俗には薬師とも呼ぶ。千代が『薬師に時を移して。秋風の山をまはるや鐘の聲』と吟じたのもそれである。寺傳には、行基を開山とするが固より何の據もない。當寺に陶製金剛童子立像一軀を藏し、明治三十四年四月國寶に指定せられて居る。蓋し支那舶載の作品であらうといはれる。その他絹本着色般若十六善神畫像一幅・絹本着色十六羅漢畫像(今四面)を藏し、並びに鎌倉末期乃至室町初期と認められ、文化九年高木直貞書寫々庵詞書の絹本着色山中温泉繪卷二巻も藏せられる。

イオウゼン 醫王山 河北郡の東南二俣領で、越中の境上に立つ。一に育王山又硫黄山に作る。山體石英粗面岩。海拔九三九米。郡中第一の高峰で、山麓大菱池から上るを普通とする。金澤人はこの醫王山を奥醫王といひ、その北に連る白丸山・黒瀧山附近を概して醫王山とする。加越能大路水經に、『醫王山は戸室山の東、二俣村の奥なり。山上薬師有故に名づく。』と見えるものも、白元權現の石祠のことなるべく、又世に醫王山の爲ヶ峠・大池など稱するは白元山附近である。白山禪定私記に、泰澄が越前越智山で飛鉢を以て海運の船舶に供を求めたと元亨釋書にあるのを、醫王山の事實として附會して居るが、矢

イ